



長かった2学期も残すところあとわずかとなりました。今学期も本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございました。昨年の4月から書き始めた校長室だよりでは、毎月コロナウイルス感染症に関係する内容を書いていましたが、先月あたりから感染状況も落ち着き、特筆すべきことが少なくなりました。しかし、新たな変異株発生のニュースが流れているように、これから先がどうなるのかは誰にもわかりません。児童数の多い本校では、感染のリスクが高いため、基本的な感染症対策を継続しつつ、その時での最善を探しながら学校運営をしていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

「 躰 」 と 「 教 育 」

今年の秋の遠足での話です。1年生に付き添い大阪城公園に行きました。10月とは言えその日は暑く、帰る前には水筒が空っぽになってしまう子どもが続出しました。そこで熱中症を防ぐために急遽ペットボトルの水を買って、水筒に入れてあげる事にしました。大勢いるので並ばせて順番に少量ずつ入れていましたが、水を入れてもらった後にきちんと「ありがとう。」とお礼を言う子どもいれば、無言で立ち去る子どもいます。「何て言うの？」と促すと、ほとんどの子どもは「ありがとう。」と言うことができたが、中には水の量を見て「これだけ？」と言う子もいて、思わず苦笑。

「躰」という字は、「身」を「美」しくすると書きます。「物をもらったらお礼を言う」だけでなく「あいさつをする」「嘘をつかない」「物を丁寧に使う」「人の物を盗まない」「食べ物を残さずきれいに食べる」「履物を揃える」など、「躰」は子どもが人として社会で生きていく上でのルールやマナーを身に付けさせることです。「躰」という文字は、日本で作られた文字(国字と言います)ですが、きちんとしつけられた人は、所作だけではなく考え方も美しいと思います。

一方「教育」とは、知識や技術を教え、人の能力を開発して望ましい姿に育てる事を言います。「学校教育」だけでなく「幼児教育」や「社会教育」など、対象や目的によって変わることから、その意味は広くとらえられます。

ところで、この「躰」と「教育」は、似ているようで少し違います。「躰」は、その結果として同じような姿に近づく事になりますが、「教育」では、個性を伸ばすと様々な将来に行きつくように、結果は必ずしも同じ姿にはなりません。

学校教育の場である学校は、もちろん「教育」をしています。また、学校が子どもたちの人格形成や集団育成の場であることから「躰」に近い「教育」もしています。生活指導として、あいさつなどの「基本的な生活習慣」や「公正・公平な態度」などを



教えていますし、道徳の授業にもそうした事を学ぶ学習内容があります。

しかし、「家庭」での「躾」が不十分だと、「学校」での「教育」の効果は半減します。なぜなら、子どもの周りの大人が同じ価値観で導かないと、子どもはすぐに易い方に流されていくからです。たとえば、学校でいくら「時間を守りましょう」と指導しても、普段から家庭での時間の過ごし方がルーズであれば、子どもは楽な方が基本になってしまいます。

子どもの未来を作るのは大人の責任です。大人になった時に恥ずかしい人間にならないように育てなければなりません。学校では集団規範や礼儀作法について、これからも指導を続けていきますが、ベースとなる家庭での「躾」があってこそ「教育」です。家庭と学校とが、子どもの未来について同じ方向を見ながら、価値観を共有して育てていく事ができればよいなと思っています。

修学旅行を終えて

11月27日～28日に、非常事態宣言の延長で延期していた6年生の修学旅行を実施しました。2日間ほぼ天候に恵まれて、小学校生活のよい思い出を作れたと思います。

昨年修学旅行に行ったのは、感染流行の谷間の時期でしたが、誰もいない平和記念公園やシャッター街と化した宮島の土産物売り場など、今まで見たことのない風景の連続でした。しかし、今年は感染状況の落ち着き具合に加えて土日ということもあって、どの見学地に行っても一般の観光客がいて活気のある中での旅行となりました。



堀江小学校では、4年前から修学旅行の目的地を広島に変更して、平和学習のまとめとしています。今年は、現地のボランティアガイドの方々に協力していただき、グループに分かれて平和記念公園内にある碑めぐりをしました。公園内には、原爆供養塔をはじめ当時を伝えるたくさんの碑があります。ガイドのみなさんは、それらの前でお手製の資料を使ってわかりやすく説明してくださいました。中には公園を出て爆心地まで案内してくださった方もいました。そうしたお話を聞いた後で原爆の子の像の前で行った平和集会は、本当に心に沁みるものとなりました。一緒に参加していただいたガイドの方からも「感動しました。とても素晴らしい集会でした。」とお褒め



の言葉もいただきました。そして、6年生のみんなが歌う「地球星歌」を聞きながら、あらためて今の平和が多くの犠牲の上に成り立っていることを感じ、子どもたちには命を大切にしたいなと思いました。

6年生のみなさん、たくさんの楽しい思い出とともに、ここの学びを絶対に忘れないでくださいね。